

遊びの中で育まれる子どもの学び

－ 3歳児の遊びの姿から －

河津 花奈 [鹿児島大学教育学部附属幼稚園]

Child learning fostered through play: By watching a three-year-old child play

KAWAZU Kana

キーワード：保育、学びの見取り、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、遊び

1. はじめに

平成29年3月、平成28年12月の中央教育審議会の答申を受け、幼稚園教育要領を含む学習指導要領等が告示された。幼稚園においては、本年度から新幼稚園教育要領が完全実施となっている。今回の幼稚園教育要領の改訂では、「環境を通して行う教育」を基本とすることは変わらないものの資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として明確化し、教師が指導を行う際に考慮するものとされた。これは、小学校と共有することにより幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を図ることが期待されている。

実際の指導では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標でないことや、個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意する必要がある。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は5歳児に突然見られるようになるものではないため、5歳児だけでなく、3歳児、4歳児の時期から、幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意する必要があるとされている。

幼稚園では、幼児の自発的な活動である遊びを中心とした生活を通して一人一人に合った指導を行っている。遊びは幼児期特有の学習であり、幼稚園教育では、遊びを通した総合的な指導を行うことが重要とされている。そうした遊びを中心とした幼稚園生活で、子どもたちは様々な事象に興味をもって関わったり、友達と思いを伝え合いながら一緒に遊びを進めたりする経験を重ねている。この様々な経験の積み重ねから学びが育まれていくと考える。教師は、遊びの中で子どもが発達していく姿を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて捉え、適切な援助をすることが求められる。そこで、本報告では、幼稚園に入園したばかりの3歳児の4月から7月の遊びの事例から「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点に子どもの学びを見取り、教師の援助の在り方を探っていきたいと考える。

2. 方法

3歳児（男児：10人，女児：10人，計20人）の4月から7月の事例から，子どもの「学びの姿」を見取り，「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連を考えることとした。方法を整理すると以下の通りである。

- 事例ごとに「学びの姿」を見取り，教師の援助を整理する。
- 見取った「学びの姿」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連を考える。

3. 保育の実際

4月に3歳児20人が新たに入園してきた。これまでに，他の幼稚園や保育園を経験した子どもたちもいるが，初めて集団生活を経験する子どもも多く，新しい環境に興味・関心をもっているものの不安を抱えながら登園してくる子どもたちも多くいた。そこで，教師は，幼稚園は，安心して過ごすことができる場所だと感じられるように，子どもの興味・関心を大切にして関わり，安心感と教師への信頼感を味わえるよう心掛けて援助していきたいと考えた。

(1) 砂場遊びの事例から

ア 4月12日(木)：あれっ?バナナ，なーい

子どもの姿・教師の関わり	教師の思い・援助
<p>○ 入園式の次の日，子どもたちが登園してきた。朝の支度を済ませると，園の環境に触れながら，思い思いの遊びを始めた。</p> <p>A児「どうぞ。」 (お皿に砂を盛って，教師に持ってくる。)</p> <p>教師「ありがとう。おいしいね。これは何ですか？」 A児「これは，ごはん。」 教師「ごちそうさまでした。また，お願いします。」 A児「はい。」(また，砂場に料理をつくりに行く。)</p> <p>○ A児の姿を見て，他の子どもたちも皿に砂を盛って，教師のもとに持ってきた。テーブルには，様々な容器に入れた，たくさんの料理が並んだ。</p> <p>B児「どうぞ。お子様ランチです。」 C児「お子様ランチ」(うれしそうに自分の方に引き寄せ，食べようとする。)</p> <p>B児「だめ！先生の。」 教師「先生につくってくれたんだね。いただきます。Bちゃん，おいしいよ。」 B児「うん，またつくってくる。」(砂場に行く。)</p> <p>教師「じゃあ，先生もつくろうかな。」(星形の容器に入れられた砂をひっくり返して，型抜きをする。)</p> <p>C児「わー，ほしさん。ほしさん。」</p> <p>○ C児は，バナナ型の容器に砂を入れて戻ってきた。</p>	<p>○ 入園したばかりのこの時期は，幼稚園の環境に慣れ，安心して過ごすことを大切に援助したいと考えた。</p> <p>○ 子どもたちと一緒に遊び一人一人とのやりとりを通して，信頼関係を築いていきたいと考えた。</p> <p>○ B児の先生に食べてもらいたいという思いを受け止め，B児とC児のそれぞれとのやりとりをした。</p> <p>○ 砂に盛る他にも砂でいろいろな表現ができることに気付いてもらうために，型抜きをして見せた。</p>

<p>教師「Cちゃんは、バナナをつくるんだね。」 C児（教師と同じように容器をひっくり返して、型抜きをする。）「あれっ？バナナ、ない。」 ○ C児は、さらさらの砂を入れたため、型抜きができなかった。C児は、あまり気にせず、遊びを進めた。</p>	<p>○ C児の自分でもやってみ たいという思いを大切に 見守った。</p>
<p>【学びの姿】</p> <p>○ 砂を様々な料理に見立てて、教師との言葉のやりとりを楽しんだ。 【言葉による伝え合い・豊かな感性と表現】</p> <p>○ 砂の感触を味わい、さらさらの砂では固まらないことを体験した。 【健康な心と体・思考力の芽生え】</p>	

イ 4月17日（火）：水を使って

子どもの姿・教師の関わり	教師の思い・援助
<p>○ D児が砂場で料理を振る舞っていた。 D児「先生、お水がほしい。」 教師「何に使うの？」 D児「お料理。」 教師「そっかあ、じゃあ、この水道の水を使ってね。」 D児「うん、わかった。」 ○ D児は、水を汲んで、遊びに使い始めた。 教師「何が出来るのかな？」 D児「お茶をつくってるの。」 教師「それじゃ、おいしいお茶をお願いします。」 ○ 水に砂を混ぜたり、スプーンですくったりしてお料理づくりは、進んだ。</p> 	<p>○ 水を使って遊ぶことで、さまざまな料理づくりを楽しんでほしいと考え、水を用意した。</p> <p>○ 一緒に料理づくりを楽しみ、砂と一緒に水を使うことで料理の表現の仕方が広がる楽しさに共感するようにした。</p>
<p>【学びの姿】</p> <p>○ 水を使うことで、スープや飲み物ができることに気付く。 【豊かな感性と表現、言葉による伝え合い】</p>	

ウ 5月11日（金）：木の実や花をつかって

子どもの姿・教師の関わり	教師の思い・援助
<p>○ 砂をつかった遊びは、テーブル上だけでなくままとハウスやすべり台の上で展開されるようになった。 E児「先生、見て！すごいでしょ。」（ビニール袋に入ったクワの実を見せる。） 教師「たくさん集めたね。すごい！それ、どうするの？」 E児「お料理に使うの。」 教師「何をつくるの？」 E児「ジャム。」 教師「おいしいお料理をつくってね。」 ○ E児は、ジャムに見立てたクワの実を皿に盛り、砂と混ぜてジャムづくりを始めた。</p> 	<p>○ 自分の思いをもって砂や木の実を使った表現を楽しんでいる子どもたちである。子どもたちの発見に共感し、クワの実をどのように使うのか見通しがもてるように言葉を掛けた。</p>

【学びの姿】

- クワの実を見つけ、ジャムに見立てて遊びに利用した。

【自然との関わり・生命尊重, 豊かな感性と表現】

エ 5月30日(水):先生,できたよ

子どもの姿・教師の関わり	教師の思い・援助
<ul style="list-style-type: none"> ○ 砂場では,新しく準備された砂場の道具を使って,遊ぶ子どもたちの姿があった。 教師「先生もやってみよう。」(型抜きに砂を入れ,皿の上でひっくり返し,周りの子どもたちに見せる。) F児「Fも(やる。)」(教師と同じように別の型抜きに砂を押しつけ,型抜きを砂の上に素早くひっくり返す。) 教師「すごいね。これは,何かな?」 F児「プリン。」 教師「おいしそうだね。じゃあ,先生は,もっと大きなものをつくろう。」(ふるいに砂を入れ,型抜きをする。) F児「あっ,ケーキ!」 ○ その後も砂でいろいろな形を型抜きして,楽しんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新しく準備した道具に触れ,型抜きをすることで,さまざまな表現の方法に気付くきっかけとなるように型抜きをして見せた。 ○ 子どもたちと一緒に型抜きの楽しさを味わい,できた満足感に共感した。

【学びの姿】

- 砂をつかった型抜きの仕方が分かり,いろいろな型抜きを楽しむとともにできた満足感を味わう。

【思考力の芽生え,豊かな感性と表現】

オ 5月30日(水):お誕生日パーティーを開こう

子どもの姿・教師の関わり	教師の思い・援助
<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師は,テーブルと椅子を準備し,型抜きでできたケーキを運び,子どもたちとヤマモモなどを飾った。次々に料理が運ばれ,お誕生日パーティーを開くことになった。 教師「じゃあ,始めようか。ハッピー,バースデー♪」 G児「だめ!」(まだ,席についていない。) 教師「Gちゃんの準備はまだ出来ていないようだね。」 E児「じゃあ,待とう。」(しばらく,待つ。) 教師「もう,準備はいいかな?ハッピー,バースデー♪」 G児「だめ!」(ニコニコしながら言う。) 教師「みんな,どうする?」 D児「じゃあ,もう少し。」 ○ 教師が歌い,G児が止めることがおもしろくなり,やりとりを何度か繰り返し,みんなでG児を待って誕生日パーティーを楽しんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 入園当初の自分と教師との関係から周りの友達の実在に気付き始めた子どもたちである。子ども同士の関係を築くことができる言葉を掛け,関係を築いていきたいと考えた。 ○ 型抜きした砂を使って,教師も一緒になって誕生日パーティーを開く楽しさに共感した。



【学びの姿】

- 周りの友達と「誕生日パーティーのイメージを共有して遊ぶ。
【協同性、言葉による伝え合い】
- 型抜きした料理を並べて、さまざまな料理を表現したり、見立てたりする楽しさを
味わう。
【豊かな感性と表現、自立心】

〈考察〉

入園した子どもたちは、園の様々な環境に触れ、様々な発見をしながら遊んでいる。入園当初は、園生活に慣れること、教師との信頼関係を築くことを大切にして子どもたちを援助するようにした。始めは、「先生に見せる。」「先生に食べてもらう。」など先生と自分といった形で遊びを楽しんでいた子どもたちだが、少しずつ周りの友達存在に気付き、一緒に遊ぶ楽しさを味わうようになってきた。砂を使った遊びでも、先生や友達の料理づくりの姿に触れながら、いろいろなものを混ぜたり、型抜きをしたりして料理の表現の仕方が豊かになってきた。砂の性質に気付き、つくり方や見立てを変えながら、自分なりに試す姿を大切にして、今後も援助していきたい。

(2) 年上の友達との関わりの事例から

ア 5月17日(木)：年下の友達も招待したいな

子どもの姿・教師の関わり	教師の思い・援助
<p>うみ組の保育室では、パン屋さんを開く準備が進められていた。5歳児がお客さんをお客さんと呼ぶために、はな組保育室にやってきた。</p> <p>5歳児「パン屋さんがありますよ。来てください。」</p> <p>教師「うみ組さんでパン屋さんがあるんだって。先生、行ってみたいな。」</p> <p>A児「うん。行きたい。」</p> <p>B児「ぼくも行く。」</p> <p>C児「ぼくも(行く。)」</p> <p>教師「じゃあ、みんなで行ってみよう。どんなパンがあるのかな？」</p> <p>○ うみ組の保育室に行くと、かごにたくさんのパンが並べられていた。</p> <p>教師「わあ、たくさんパンがあるね。Aちゃん、どれにする？」</p> <p>A児「うーん。」(迷ってなかなか決められない。)</p> <p>教師「おすすめは何ですか？」</p> <p>5歳児「おすすめはさかなパンです。」</p> <p>A児「じゃあ、さかなパンください。」</p> <p>5歳児「はい、どうぞ。向こうのテーブルで食べてください。」</p> <p>教師「はい。じゃあ、みんなで食べよう。」</p>	<p>○ 幼稚園の様々な環境や遊びに興味をもって関わる事が出来るように言葉を掛けた。</p> <p>○ 3歳児と5歳児のやりとりが繋がるように間に入り、橋渡しをした。</p> <p>○ 5歳児のお店屋さんごっこと一緒にお客さんとして行き、お店屋さんごっこに必要な言葉のやりとりを知らせ、お店屋さんごっこを楽しめるようにした。</p> <p>○ 教師も一緒に買ったパン</p>



<ul style="list-style-type: none"> ○ B児もC児もパンを選び、テーブルでパンを食べたり、飲み物を飲んだりして、パン屋さんごっこを楽しんだ。 ○ 子どもたちは、パン屋さんの他にも5歳児の魚釣り屋さんやレストランに招待され、うみ組さんとの交流を楽しんだ。 	<p>を味わい、お客さんとして参加する楽しさに共感するようにした。</p>
<p>【学びの姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 5歳児の遊びにお客さん役として参加し、パン屋さんごっこの楽しさを味わう。 【豊かな感性と表現, 協同性】 ○ パン屋さんごっこに必要な道具やスペース, 言葉のやりとりを知る。 【言葉による伝え合い, 社会生活との関わり】 	

イ 6月8日(金): バネをつくってほしいな

子どもの姿・教師の関わり	教師の思い・援助
<ul style="list-style-type: none"> ○ はな組では、セロハンテープや空き箱、折り紙を準備すると、製作遊びにも興味を示すようになってきた。 5歳児「先生、見て。こんなのができたよ。」(細長い紙を交互に折り重ねたじゃばらを見せる。) 教師「すごいね。どうやってつくったの?」 5歳児「長い紙をこうやって(交互に)折ったんだよ。」 D児「ぼくも欲しい。」 教師「そっかあ。Dくんもつくってほしいんだって。」 5歳児「うん。いいよ。」 ○ D児は5歳児と一緒に5歳児保育室へ行き、じゃばらのバネをつくってもらった。 D児「先生、見て。」(つくってもらったバネを教師に見せる。) 教師「バネができたんだね。うみ組さんってすごいね。」 D児「うん。これ持って帰ってお母さんに見せるね。」 ○ この後、D児は毎日一人で5歳児のところへ行き、いくつものバネをつくってもらうようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ D児のつくってほしいという思いが5歳児に伝わるように橋渡しをした。 ○ 様々な製作方法を3歳児が知るきっかけになるようにしたいと考えた。 ○ 5歳児の自己肯定感が高まるように言葉を掛けた。 ○ D児のつくってもらった喜びに共感し、5歳児は頼りになる存在だとの関係が深まるように言葉を掛けた。
<p>【学びの姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 5歳児に頼むことで自分の思いが実現することを知る。 【自立心, 言葉による伝え合い】 ○ 画用紙やセロハンテープでの製作方法を知る。 【豊かな感性と表現, 思考力の芽生え】 	

ウ 6月18日(月): 一緒にお弁当を食べよう

子どもの姿・教師の関わり	教師の思い・援助
<ul style="list-style-type: none"> ○ この日から、はな組ではエプロンを着用してお弁当を食べることになった。初めてのことで、戸惑う子どもたちも多くいることが予想されたため、5歳児にお手伝いをお願いすることにした。年長児と一緒にお弁当も食べることを子どもたちに伝えると楽しんでいる様子であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前にお弁当を食べることを知らせ、期待感が高まるようにした。 ○ 互いの関係が深まり、5歳児は頼りになる存在だということが分かるように言葉を掛けた。この機会に5



<p>5歳児「お手伝いに来ました。」 教師「ありがとう。よろしくお願いします。みんな、うみ組さんと同じエプロンを着ようね。」</p> <p>E児「うん。(自分で着ようとするが、ボタンができない。)手伝って。」 5歳児「いいよ。(ボタンを留めてあげる。)できたよ。」 E児「ありがとう。一緒にお弁当食べよう。」 5歳児「いいよ。」</p> <p>○ E児は、5歳児の女の子と一緒に弁当を食べ、午後からも一緒に遊ぶ約束をして、一緒に遊んだ。お弁当交流は、1週間続き、お弁当以外の時間も一緒に遊ぶ姿が増えた。</p>	<p>歳児の自信も高まるように声を掛けた。</p> <p>○ この経験をもとに、互いを知り、一緒に遊ぶ機会が増えるように考えて、言葉を掛けた。</p>
<p>【学びの姿】</p> <p>○ 5歳児を見て、エプロンの着用の仕方を知る。 【健康な心と体、自立心】</p> <p>○ 困ったことがあったら、うみ組さんが助けてくれることが分かり、願います。 【社会生活との関わり、言葉による伝え合い】</p>	

エ 7月6日（金）：うみ組電車で出発進行！

子どもの姿・教師の関わり	教師の思い・援助
<p>○ うみ組の子どもたちが大型積み木で電車をつくって遊んでいた。</p> <p>F児「わあ、電車ができている。」 教師「これ、乗れるのかな。」 5歳児「はな組さん、乗っていいよ。」 教師「乗っていいんだって。どこに乗る？」 F児「ぼく、ここ。」(座席の部分に座る。) 3歳児「ぼくも(乗る)。わたしも(乗る)。」 5歳児「もうすぐ出発します。」 教師「みんな、いってらっしゃい！」(手を振る)</p> <p>○ 座席に座り、座る場所を入れ替わりながら、みんなで水族館や動物園に行く電車の旅を楽しんだ。</p>	<p>○ 5歳児に3歳児の思いを伝え、楽しく参加できるように橋渡しをした。</p> <p>○ 水族館や動物園など行き先のイメージを互いに共有できるように言葉を掛けた。</p>
<p>【学びの姿】</p> <p>○ うみ組の遊びに入れてもらい、遊びの幅を広げる。 【社会生活との関わり、協同性】</p> <p>○ 教師を介して、自分の思いを伝える。 【自立心、言葉による伝え合い】</p>	

オ 7月6日（金）：ステージをつくらう

子どもの姿・教師の関わり	教師の思い・援助
<p>○ プレイルームのうみ組の子どもたちが音楽に合わせて踊りを踊っていた。</p> <p>5歳児「見る人は、椅子をもってきてください。」 G児「はい。」(椅子を運んでくる。) G児「まだ足りないね。そうだ、はな組から持ってこよう。」</p>	<p>○ うみ組の客席をつくりたいという思いを達成できるように見守った。</p>

<p>H児「ぼくも持ってくる。」 ○ はな組保育室で G児「椅子，持って行く。」 教師「どうしたの？」 G児「うみ組さんのステージをつくるの。」 ○ 二人は各保育室から椅子を何往復もして運び，客席をつくり，うみ組のステージショーを楽しんだ。</p>		<p>○ 教師を介さなくても思いを伝え，5歳児との遊びを楽しむ姿を見守り，達成感を味わった客席で，一緒にステージショーを楽しんだ。</p>
<p>【学びの姿】</p> <p>○ 教師を介さなくても，5歳児との交流を図る。 【協同性，言葉による伝え合い】</p> <p>○ うみ組の遊びに役割を見つけて参加する。</p> <p style="text-align: right;">【道徳性・規範意識の芽生え・社会生活との関わり】</p>		

〈考察〉

入園して2か月が経ち，幼稚園で一番年上の「うみ組さん」と遊びの経験を重ねるごとに「うみ組さん」へ憧れの気持ちが高まり，自分たちも真似をしながら遊びを楽しむようになった事例である。教師は，はな組の子どもたちの憧れの気持ちを大切にし，うみ組の遊びに目を向けたり，一緒に遊んだりして，橋渡しをした。そうすることで，うみ組さんを真似しながら，子どもたちの遊びが広がっていくと考えられる。また，はな組の子どもたちに頼られることで，うみ組の子どもたちの自己有用感も高まり，自信に繋がると考える。

4. おわりに

入園した当初の子どもたちは，幼稚園の環境に興味を抱き，保育室や砂場，遊具等に触れて，遊んでみて，自分の好きな遊びを見つけていく。家庭での生活を離れ，初めての集団生活を送る子どもたちも多く，安心して遊ぶことのできる幼稚園での教師の存在は大きなものであると考えられる。教師と一緒にやってみて新しく知ったり，気付いたりしたことを次の遊びに活かし，何度も自分でやってみることで，新たなことに気付いたり，遊びが広がったりし，学びに繋がっていくと考える。

4月には，自分と教師との関係で遊んでいた子どもたちは，徐々に友達存在に気付き，友達と遊ぶ楽しさを味わうようになってきた。また，幼稚園には，頼りになる年上の友達もおり，遊びの広がりと同時に，人間関係も広がり学びに繋がっていくと考えられる。

教師はその子どもたち一人一人の遊びを援助し，遊びを通した学びの姿を見取ることが大きな役割になってくる。子どもたちに寄り添い，一緒に遊びを楽しむことで，子ども一人一人の学びを見取る力を向上させていきたいと考える。

参考文献

- 幼稚園教育要領解説 (文部科学省 2018)
- 新幼稚園教育要領ポイント総整理 幼稚園 (株式会社東洋館出版社 2017)